



サービス・ツーリズム産業労働組合連合会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-5-6 造船会館4F
TEL 03-3230-0465 FAX 03-3239-1553
E-mail: stu@net-stu.com
発行人 数村 滋

第4回定期大会を開催



変革期の中での運動の改革をめざす

サービス連合は、7月22日に東京・ホテルラングウッドにおいて「第4回定期大会」を開催しました。

定期大会には、役員・代議員・傍聴者など約300名が出席し、中間年にあたって「2004春季生活闘争のまとめ」、「2003～2004年度運動方針中間のまとめと補強」などの議案を熱心に討議し、各大会議案を原案どおりに採択しました。

本部定期大会に引き続いてホテル・レジャー部会、観光・航空貨物部会の「第4回部会定期総会」が開催され、各部会2003～2004年度運動方針の補強を行いました。

「組織拡大と自らの運動改革」をさらに推し進めていくことを共通認識として2004年度の運動に取り組んでいきます。

300名が出席し熱心な議論

戸松副会長の司会で開会した定期大会は、清水代議員（リーガ労連）、松居代議員（日本旅行）の両氏を議長団に選出して議事に入りました。

冒頭のあいさつで笠原会長は、2003～2004年度の中間年にあたり「10万人構想の着実な実現」と「産別機能の整備と運動の定着」についての基本認識に大きな変更はないとしながらも、組織人員の減少傾向が続き、中期的な運動方針議論の基盤がさらに変化していると述べ、2004年度の重点課題として「組織拡

大」「変革期の中での運動の改革」「財政健全化」の3つの課題に、引き続き強い気持ちを持って取り組もうと訴えました。

続いて来賓のあいさつを受け、まず連合を代表して草野事務局長が、先般成立した年金法案について労働者の立場からそれに代わる新たな年金制度の確立に向けた提言を政府に行っていることを報告し、さらに来春予定しているサービス連合初の在外公館の役員派遣についての経過を述べられました。

また、航空連合の清水会長は、最近の事例を引き合いに「空の安全」確立のために取り組んでいるコンプライアンス（法令順守）を徹底させる運動の報告とともに、近接する産業に働く仲間として今後の連携と協力強化を訴えました。

2004年度 運動方針の補強

「組織拡大」と「財政の健全化」をめざす

定期大会では、熱心な議論の末にすべての議案が賛成多数で原案どおりに可決されました。

2003年度1年間の運動では、新規組合の結成や契約社員の組織化など組織拡大の努力で一定の成果が示されたものの、一方で組合解散や早期退職の実施などが相次いだ結果、昨年を上回る4,000名以上の組合員が減少しました。

こうしたかつてない厳しい状況を踏まえ、「2003～2004年度運動方針中間のまとめと補強」では、「組織拡大」と「財政の健全化」をめざす具体的な方策を提起しました。

引き続き“4000名”の組織拡大を

昨年度の大会で確認した重点課題の一つである組織拡大にはさらに全力を傾注し、引き続き「2年間で4,000名」の新規拡大目標の実現をめざすことを確認しました。

この目標達成のためには、各加盟組合の契約社員やパートタイマーの組織化運動のさらなる強化が求められます。

『組織財政検討委員会』答申を報告

また、組織人員の減少に歯止めがかからない状況に対応するための産別運動の改革議論については、この1年間本部三役で



円滑に議事を進めた議長団
松居議長（左）、清水議長（右）

構成する『組織財政検討委員会』を設置して、「本部・部会の役割と体制」、「地連の役割と体制」、「組織財政運営のあり方」、「会費のあり方」など、さまざまなテーマについて議論を行ってきました。

検討委員会の議論経過



代議員の挙手で大会議案を採択

と検討内容は、5月の中央執行委員会に「2005年度に向けた組織体制と財政方針について」と題して答申されています。

この答申内容は定期大会に報告されましたが、組織財政問題全般にわたる改革課題であることから、引き続き地連定期大会をはじめ各機関での議論を継続し、来年1月開催の中央委員会までに具体的な方向性を打ち出すことが確認されました。

なお、答申のうち2004年度から実施可能な課題については、運動方針の補強に具体的に取り入れ、財政の健全化をめざすこととしています。

改正育児・介護休業法などで統一要求

2004度の具体的な運動課題としては、昨年度から進めている総合労使協議体制の確立をめざして加盟組合に対する財務分析能力向上支援やケースワーク資料の充実などに積極的に取り組みます。

また労働条件面では、①モデル労働協約を活用した労働条件の維持・安定、②60歳以降の雇用確保に向け厚生年金の満額支給開始まで就労可能となる制度の導入、③不払い残業の撲滅と適正な労働時間管理の徹底、④企業内最低保障賃金の協定化、⑤改正育児・介護休業法と次世代育成支援対策推進法にもとづく課題について2004秋闘から統一した要求と対応を行う、などに取り組むことが確認されました。

2004秋闘および2005春季生活闘争の大枠の方針も確認され、2005春季生活闘争方針は、12月の中央執行委員会に提起し、来年1月の「第4回中央委員会」で確認することとしています。

組織共済の支給内容を改訂

定期大会では、財政健全化策の一環として「サービス連合組織共済」と「金太郎基金」を一元化するとともに、「組織共済」の支給内容を一部見直し、改訂することが確認されました。

具体的には、これまでの弔慰金と災害見舞金の支給項目のうち、災害見舞金の自然災害による被災については、見舞金支給の対象から除外することになりました。

この改訂は7月22日以降発生分より適用されることになり、これにともない支給申請書の様式も改訂されます。

サービス連合本部ホームページ開設しました
<http://www.net-stu.com/>

東急観光労組への特別支援を決議

定期大会では、労働協約や過去の労使慣行を無視する会社と粘り強いたたかいを続けている東急観光労組（松本達也委員長、組合員1,692名）への特別支援決議を満場一致で採択しました。

筆頭株主の変更で一変した労使関係

今年4月、東急観光株式会社の筆頭株主が「東京急行電鉄」から投資ファンド会社の「アクティブ・インベストメンツ・ファンド」に変わり、経営の実権がファンドの管理運営会社「アクティブ・インベストメント・パートナーズ株式会社（AIP）」に移行したことを契機に、東急観光の労使関係は一変しました。



決意を表明する
波部書記長（東急観光）

AIP社は、組合が申し入れた団体交渉はことごとく「経営問題である」と拒否する一方、3月24日には労使間で「営業数値の判明する5月中には、誠意をもって回答する」と確約していた夏期臨給水準についても、5月31日に至って営業数値も説明しないまま「夏期臨給は支給しない」と、以前の交渉経過を全面的に覆し、さらに団体

交渉の開催中に社長名での“全社一斉メッセージ”を組合員に直接配信するなどの、不誠実交渉や団体交渉拒否、組合員への支配介入を繰り返しました。しかも、上期業績は予算を達成し前年を大幅に上回っていることは、会社側も認めています。

このため、同労組はやむをえず6月14日東京都地方労働委員会（都労委）に一連の不当労働行為救済を申し立てました。

夏期臨給問題さえ未解決という事態を重視した都労委は、その後7月1日、同14日、8月2日と連続して労使双方への調査と会社側の説得を続け、8月2日の第3回調査において、ようやく「夏期臨給などについて早急に団体交渉を開催する」との確認が行われました。

同労組は、当面する「夏期臨給問題」の解決と労使関係の正常化実現のために、都労委申し立てと並行して闘争体制の確立も含むあらゆる準備を整えてたたく決意を固めています。

すでに「支援対策会議」も発足

一連の事態を重く受け止めたサービス連合は、すでに連合本部と連合東京の賛同を得て6月30日に笠原会長を議長とする「東急観光労組支援対策会議」を設置して支援活動を開始していますが、定期大会での特別支援決議を受けて、同労組へのさらなる支援の強化をはかります。

新しい仲間を歓迎し、「ツーリストサービス労組」を表彰

定期大会では、7月1日にサービス連合に加盟した「ヒルトン小樽インターナショナル労組」千葉委員長と、1月16日に加盟した派遣添乗員組織「ティーシーユニオン」藤原執行委員と城執行委員が紹介され、満場が歓迎するなかで新たな仲間としての決意を表明しました。

この1年間にサービス連合に新規加盟した組合は次のとおりです。（■印が定期大会で紹介された組合です）

〈2003年度新規加盟組合〉（人数は結成時・加盟時の組合員数）

中国国際旅行社（日本）労働組合	2003年11月14日結成	26名
函館ハーバービューホテル労働組合		
	2003年11月25日結成	66名
■ティーシーユニオン	2004年01月16日加盟	84名
■ヒルトン小樽インターナショナル労働組合		
	2004年07月01日加盟	20名

また、重点課題に掲げた契約社員の組織化について、「第一阪急ホテルズ労組」や「日本旅行労組」が大きな成果を上げましたが、なかでも執行部総がかりでユニオンショップ



表彰を受けたツーリストサービス労組
松永委員長（左）、内田書記長（右）

協定の改訂に取り組み、契約社員400名全員の組織化に成功した「ツーリストサービス労組」に対して、その努力と実績を高く評価して“組織表彰”を行い、笠原会長から同労組松永委員長に表彰状と賞金が授与されました。

本部役員4名を補選

定期大会では、退任者や新たな特別中央執行委員の選出などにともない、2004年度本部役員4名の補選を行いました。

新たな特別中央執行委員には、連合秋田へ派遣の藤井氏、来春外務省の在外公館派遣予定の勝村氏、中央執行委員から今年度フォーラムジャパンへ派遣となる中村氏を選出しました。さらに新たな本部会計監査には渡辺氏を選出しました。

また、今大会をもって会計監査の大矢野氏（東急観光）が退

任され「役員退任慰労表彰」を受けました。1年間本当にごくろうさまでした。

補選された2004年度本部役員は、次のとおりです。

補選された2004年度本部役員

特別中央執行委員	藤井 真悟	（専従：連合秋田派遣： アキタニューグランド）
同	中村 雅信	（専従：フォーラムジャパ ン派遣：東武トラベル）
同	勝村 良子	（在外公館派遣：日本旅行）
同	渡辺 武	（東急観光）

観光・航空貨物部会とホテル・レジャー部会の第4回定期総会は、第4回定期大会の閉会後に引き続いて同日14時30分からホテルラングウッドで開催されました。

部会定期総会では、本部と同様にこの1年間の運動をふりかえり、2003～2004年度部会運動方針中間のまとめと部会独自の課題について運動方針の補強を行いました。部会定期総会の模様を、両部会事務局長がレポートします。

観光・航空貨物部会 第4回定期総会

中期的で目標感ある運動を！

観光・航空貨物部会第4回定期総会には、代議員、役員、傍聴者など約140名が出席し、議長団には太田代議員（近畿日本ツーリスト）、川村代議員（東武トラベル）が選出され、議事が開始されました。

まず、この1年間旅行業はこれまでの延長線上では考えられない業界再編などの大きなうねりを感じさせ、一方好調を維持する国際航空貨物業にとっても変化の大きい1年だったとふりかえり、具体的な運動の経過を総括しました。

2003～2004年度運動方針の中間のまとめと補強では、引き続き「中期的で目標感をもった運動の継続」と「経営問題をはじめとする総合労使協議体制の確立」を中心課題として取り組みを進めていくことを確認しました。

「グループ企業の組織化」を強化

具体的な運動課題では、賃金・労働条件では「定昇相当分の確保と同一年齢における年収の確保」を最低基準とする取り組みを継続する一方、一時金の要求水準については業績連動一時金制度の拡大傾向も踏まえて引き続き議論を行うことや、特殊勤務手当の基準見直し案などを確認しました。



産業政策では、この1年、各省庁との交渉に加え、旅行業法改正や、とりわけ正加盟した日本ツーリズム産業団体連合会(観光立国税制懇談会・休暇改革委員会等)に宮坂部会長を委員として派遣し、産業労働者の立場から提言を行いました。引き続き要求実現に向け取り組んでいくこととします。

また、組織課題については、組合員範囲の見直しやグループ企業の組織化を中心に加盟組合と連携し、取り組みを強化していくことを確認しました。

【小田幸宏】

労使協議定着化の重要性を確認

ホテル・レジャー部会 第4回定期総会

ホテル・レジャー部会第4回定期総会は、代議員、役員、傍聴者など約160名が出席して開催されました。

総会議事では、「ホテル・レジャー部会2003～2004年度運動方針中間のまとめと補強」が審議され、次のようなまとめと方針の補強を行いました。

この1年間、企業をとりまく環境が依然厳しいなかで、経営改善や拡大する有期雇用社員、複雑化する賃金・人事制度などの重要課題に十分とはいえないまでも対応に努めてきました。さらに産業労使懇談会の継続開催や経験交流集会での各組合間

の意見交換を通じて、日常的な労使協議の定着化と総合労使協議体制の確立に向けた取り組みの必要性を確認しました。

企業内未組織対策に全力

組織拡大は、引き続き最重要課題として雇用形態の多様化に対応する「組合員範囲の見直し」「契約社員・パートなどの組織化」「社員登用制度導入」の一層の強化と積極的な取り組みを確認しました。また、全国的な新規ホテルの開業による競争激化が雇用や労働条件に与える影響や未組織労働者の増大などに対処するためにも、組織拡大の重要性を再確認しました。

総合労働条件の取り組みでは、安定した年間賃金や労働条件の維持・向上、安心して働ける職場環境の拡充のため、労働協約の締結・改訂を通じて、基準や指針をもとに目標感のある運動を進めるうえでも、産業基準確立に向けた取り組みの強化を確認しました。

政策関連課題では、現在ホテル・旅館産業プロジェクトが取り組んでいる宿泊産業の調査分析を、2005年7月を目途にまとめることを確認しました。

依然厳しい産業環境のなかで、ホテル・レジャー部会は新たな1年の運動を開始します。

【林田一郎】

